

年頭のご挨拶

お慶びを申し上げます

町民の皆様、あけましておめでとうございます。希望に満ちた輝かしい令和八年の初春を、ご家族お揃いで健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

私は、町民の皆様の温かいご支援のもと、悠久の歴史と伝統に輝く上ノ国町の町長として光榮にも六期目を担わせていただいております。残任期も半年を切り、これまでの取組を確かな成果へと結び付ける大切な節目の年を迎えることとなりました。

上ノ国町長
工 藤 昇



就任以来、今日に至るまで、私は「私たち町民一人ひとりが現状を自覚し、一人ひとりがこの町を変える意思を示す」という基本姿勢のもと、行財政改革による財政健全化、産業基盤の強化、子育て支援をはじめとする少子化対策など、時代の要請に応じたさまざまな課題に、議会ならびに町民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、全力で取り組んでもまいりました。

この間、皆様から賜りました深いご理解と、格別のご協力に対し、心から感謝申し上げます。

さて、過ぎし令和七年を振り返りますと、一月に宮崎県沖の日向灘を震源とする強い地震が発生し、南海トラフへの不安が高まる

中、三月には政府の中央防災会議が南海トラフ巨大地震の被害想定を十年ぶりに全面的に見直して公表し、防災意識の重要性が改めて問われました。四月には大阪・関西万博が開幕し、準備段階では批判も多かつたものの、インバウンド需要も急増し、終盤は連日超満員となるなど評価が持ち直し、会期百八十四日間を終え、閉幕しました。そうした中、十月には日本初の女性首相となる高市早苗内閣が発足し、自民党と日本維新の会などとの枠組みで、積極財政や防衛力強化を掲げるなど、令和七年

を象徴する政治の動きとなりました。日本経済は、「物価高対策・子育て支援」と「防衛力強化」という二つの大型財政支出を同時に抱える局面に入つたと言えます。町内の出来事を振り返りますと、何よりも町内各地でのヒグマ出没への対応が、町にとつて大きな課題となつた一年であります。関係機関とも連携しながら、「有事」として対応に当たり、その結果、百五頭を捕獲し、事故なく一年を終えることができました。これは、町民の皆様お一人おひとりが安全に配慮し、情報提供や見守りにご協力くださつた賜物です。引き続き「命を守る」ことを最優先に、迅速な情報共有と対策を徹底してまいります。

一方で、人口減少や物価高騰、担い手不足など、地域を取り巻く課題は年々厳しさを増していきます。こうした時代だからこそ、本町は「暮らしを守る」とことと「未来をつくる」ことを同時に進めていかなければなりません。昨年は、その基盤づくりとして、政策面でも大きな前進がありました。本町では昨年を「GX元年」と位置付け、七月三十日付で檜山沖の海域が海洋再生可能エネルギー発電設備整備促進区域に指定されたことにより、関連産業や人材の流れを町に呼び込み、若い世代が